

経営比較分析表

大分県 豊後大野市

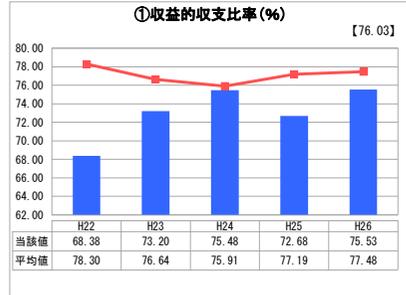
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	28.56	3,140

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
38,643	603.14	64.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
10,941	28.08	389.64

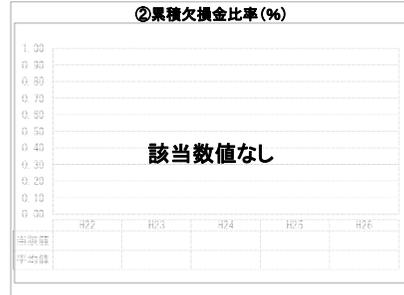
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



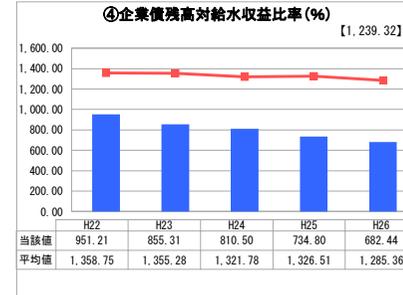
「単年度の収支」



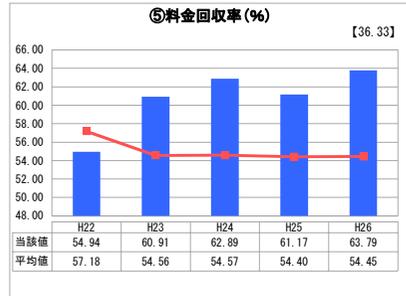
「累積欠損」



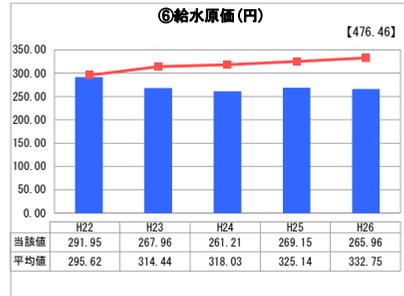
「支払能力」



「債務残高」



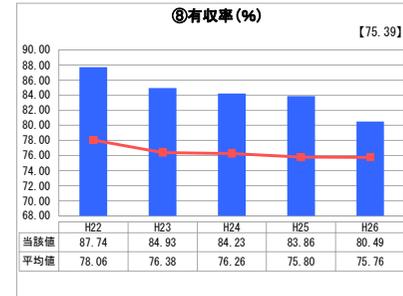
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

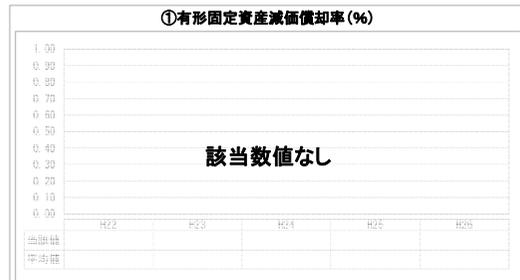


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市は、簡易水道事業を6地区有し、給水収益と一般会計からの繰入金の収益で運営管理を行っている。
収益的収支比率は、類似団体より低いものの、経年で比較した場合、料金回収率の向上とともに若干の改善が図られていることから、今後も収納対策が必要である。また、有収率が年々低下していることから、漏水等の原因を早急に特定する必要がある。今後は水道施設の老朽化による修繕費などのコスト増が見込まれることから、さらなる財源への圧迫が懸念される。

2. 老朽化の状況について

本市の水道施設は、旧町村時代に地区の簡易水道事業の統合を繰り返し現在に至っている。古いもので事業認可を受けて以来50年以上が経過している施設もあり、施設の老朽化が著しく、安心安全な水を安定的に供給するためには、老朽化対策が喫緊の課題となっている。
なお、管路については埋設場所が不明な箇所もあることから、管路網図システムを導入し管理の徹底を図っている。また、今後は管路経年率を算出し、計画的な管路更新を検討する必要がある。しかしながら、簡易水道事業は脆弱な経営基盤であることから、安定的な施設更新を行うことが困難な状況である。

全体総括

経営状況は、給水収益以外の一般会計からの繰入金に依存していることから、料金回収率の向上対策と費用削減を継続的に行う必要がある。また、施設・管路の老朽化に伴う更新投資も考えられることから、引き続き改善点の分析検討を行い経営改善に向けた取り組みが必要である。
今後は、上水道事業への統合を計画しており、安定的な財政基盤を構築し、より徹底したコスト削減を行い、効率的な運営管理を行う予定である。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。